

川づくりフォーラム ～ホテルと共に生きていく～

2022年
1月30日(日)
14:00～16:45

守山市立図書館 多目的室

今年の川づくりフォーラム
は私たちが企画します!



関西大学
八尋裕史さん 守山市在住

活動している理由
赤野井湾の清掃活動に参加して
びわこのゴミ問題に興味を
持ったから

京都女子大学
松田のぞみさん 草津市在住

活動している理由
環境問題にとても興味があり、
そのための活動に
参加したいと思ったから

活動されているのかも知る機会になります。そしてホテルと密接に関連している川についても、滋賀県立大学 瀧 健太郎先生をお呼びして、話し合いたいと考えています。私たち自身インターンに参加するまで、ホテルについて詳しく知りませんでした。今はホテルを取り巻く問題について知ったので、問題を多くの人に知ってもらうことが重要だと考えています。少しでも興味のある方は、ぜひ参加してください。

守山市でホテルが有名なことは知っていても、ホテルが住む環境について知らない人も多いのではないのでしょうか。守山市のホテル全てが自生という訳ではありません。今の守山市の環境はホテルが自生できる環境が減少しつつあるように思います。だからこそ、ホテルと人がこれから長く共存していくためにどうすればよいのか考える必要があります。川づくりフォーラムではホテルの自生のために活動されている団体の紹介の時間もありますので、どんな方々が、どのような思いで、

びわ湖まるっと親子セミナーを オンラインで開催します

参加費
無料



詳しくは豊穡の郷 HP をご覧ください!



申込受付中! 申込はこちら⇒

一緒に川づくりを楽しむ方募集!

《内容》小川に入ってゴミ拾い
草刈り、休憩時間の交流会等
※刈払い機の使える方大歓迎

豊穡の郷事務所
077-583-8686

今月の詩

秋乾燥 点検みまわる長男を
午前一時の窓越しに視る N.S.
柿の葉が音なく肩に舞い落ちて
赤き実もぎとる夕映えの畑
つるべ落とし陽はかげりきぬいたすらに
妻の帰宅をまちわびるなり
石田桜翠

投稿者募集中!!

これからの活動予定

- | | | | | |
|------------------|---|--------------------------------------|---|----------------|
| ◎びわ湖まるっと親子セミナー | 開 | 2021年12月12日(日) 14:00～16:20(入室13:40～) | 場 | オンライン |
| ◎豊穡の郷事務所 大掃除 | 開 | 2021年12月24日(金) 9:00～ | 場 | 豊穡の郷事務所 |
| ◎年末年始休業期間 | 開 | 2021年12月25日(土)～2020年1月5日(水) | | |
| ◎川づくりフォーラム | 開 | 2022年1月30日(日) 14:00～16:45(受付13:30～) | 場 | 守山市立図書館多目的室 |
| ◎赤野井湾・小津袋クリーン大作戦 | 開 | 2022年3月6日(日) | 場 | 玉津小津漁業協同組合事務所前 |
| ◎水辺の楽校(春編) | 開 | 2022年3月12日(土) | 場 | 目田川河川公園 |

- ◎あつまれ!みんなの川づくり 毎月第4日曜日 9:00～11:00
◎目田川モデル河川づくり 毎月第3土曜日 9:00～12:00

●開催日時 ●集合場所 ●活動場所

しじみのひとりごと

今を去る数十年前コンピューターは急速に進化を始め、大きな部屋に置かれた物が机の上に置けるように。筆者が勤務した会社でも一人一台設置。当時、外部のメッセージはテレックスと呼ぶ機械で受けてプリントを届けるのが新人の仕事で交信は機械と人経由でした。メッセージは全員メールで交信できるようになり、暫く扱いに苦労する上司が増加。今では遥かに機能アップした「スマホ」の時代に。買い物は勿論、「コロナワクチン接種もスマホを使い」と言われ、第一次イノベーションは乗り切れた私も今回はひと苦労。今、自由に使いこなしている人達も、ハード面ではなくソフト面で苦労があるようですが・・・。

T.M.

豊穡の郷 だより

2021年11月25日発行 発行部数 1,800部

Vol.94

人と水環境のネットワーク

発行 認定 NPO 法人びわこ豊穡の郷 E-mail houjyounosato@lake-biwa.net
理事長 金崎いよ子
住所 守山市勝部五丁目10-25 URL http://www.lake-biwa.net/akanoi/
TEL 077-583-8686 (有線 583-8686)
FAX 077-558-5007

- 1面 水辺の楽校-秋編-
2面 豊穡の郷活動動画、夕釣り水辺の音楽会、稲刈り体験
3面 プラスチックごみ問題出前授業、生態系ワークショップ、ほたると光について
4面 これからの活動予定、今月の詩、しじみのひとりごと

水辺の楽校-秋編-



船上でのゴミ拾い

10月10日(日)水辺の楽校(秋編)をもりやま芦刈園で開催しました。前半は、船上からのゴミ拾いと船頭体験、芦刈園内の数か所で生物調査の2班に分かれて活動をしました。後半はザリガニの釣り竿づくりと釣りを楽しみました。船上からのゴミ拾いでは、湖底からたくさんのポリ袋が引き揚げられました。一見美しい水辺ですが、琵琶湖だけでなく芦刈園の内湖にもゴミがたくさん堆積していました。とても暑い日でライフジャケットを着ているのが気の毒になりました。子ども達は元気に色んな生き物や魚を捕まえて互いに教えあい、仲良く楽しく学びました。よく参加くださるお子さんがみんなに自分の知識を披露していたり、取材に来られた地元テレビ局のインタビューにハキハキと答える姿など成長を感じる場面が見られ、とても嬉しかったです。



回収したポリ袋

豊穰の郷の活動動画を作成しました

2021年度未来ファンドおうみの助成金を受けて市立図書館横の目田川で「あつまれみんなの川づくり」の活動紹介と参加者募集の目的の動画を市立図書館のギャラリーで10月3日(日)から31日(日)までの1か月間流していただきました。作成したのは当法人の会員さんとインターンシップやボランティアで活動して下さっている大学生の皆さんです。アニメーションを使ったとても可愛い仕上がりになりました。またこの動画は11月9日(火)から11日(木)メキシコでオンライン

開催された第18回世界湖沼会議にも配信されました。世界湖沼会議用には学生さんが英語の字幕作成や吹替にも挑戦してくださいました。どちらの動画もYouTubeで視聴ができます。こちらから↓



英語版



日本語版



夕灯り水辺の音楽会 開催

水辺で遊び癒され楽しみのある川づくりで文化と医療を環境で繋ぐ音楽会を11月6日(土)守山市立図書館横の目田川河川敷で開催しました。当初、夏の夕暮れ時にキャンドルナイトで行う予定が、この時期になり日中の開催となりました。ボサノバ夫婦ユニット『カエポノ』さんに、鳥のさえずりと川のせせらぎが響く中、演奏をしていただきました。秋晴れの気持ちの良い日でしたが開始時間の15時になると少し肌寒くなりましたが、50人ほどの観客が屋外で演奏を楽しみました。観客から、「音楽を生で聞くのが久しぶりで、ゆったりと聞けてよかった。」と嬉しいお言葉をいただきました。



あつまれ!みんなの川づくり 毎月第4日曜日9:00~ 11月-バープ工をもう1本作り川の流れを変えました

コロナ禍でも

元気に稲刈り体験

10月2日(土)、秋空が爽やかなこの日、当法人が管理する事務所横の田んぼで元気な声が響きました。春の田植え体験に来てくださったclub attraction(クラブアトラクション)の元気な子どもたちと引率の大学生の皆さんです。慣れない手つきで鎌を持ち汗をかきながら自分たちが植えた稲穂を刈り取り、その後は竹を組ん

だ骨組みに束ねて干す“はさがけ”作り。途中竹組みが倒れるというハプニングもありましたが最後まで元気に頑張ってくださいました。最後は当法人で用意したふかし芋を“黙食”する様子に、感心するとともに、早く楽しくおしゃべりしながら食べられる日が来ることを願わずにいらせませんでした。



「プラスチックごみ問題」 海と湖をつなげ 出前授業

10月19日(火)立入が丘小学校、河西小学校で、海と琵琶湖のプラスチック問題の環境学習会を行いました。工房シーダーノ八尋が企画し、豊穰の郷は子どもたちに授業をする講師として参加しました。どうやったら子どもたちにうまく伝えられるか事前勉強会で意見交換をし、当日にのぞみました。びわ湖放送の協力で、石川県と2小学校をオンラインで繋ぐ初めての試みでしたが、ライブ感があり、子どもたち

には伝わるものも多かったと思います。プラスチック問題に対して「私たちができることは？」と問うことで、子どもたちも自分も何をするかを考えるきっかけになればと思います。来年度以降もこの小学校での環境学習会は進めていく予定です。

こちらに記事として掲載されています。海と日本プロジェクト in 滋賀県 <https://shiga.uminohi.jp/report/pla/>



11月9日(火) びわこ放送で授業の様子が放映されました

多くの生物が引き付けられる内湖を考えよう

生態学習
ワークショップ in 芦刈園

9月18日(土)失われつつある内湖の生態系を考えるワークショップを守山市立図書館多目的室で行いました。数年前より、もりやま芦刈園内の試験地で、多くの生物に魅力ある内湖を取り戻す方法を調べています。その方法や現状を参加した市民16名と共有しました。

上流から流入するヘドロやゴミが内湖には堆積しています。生物多様性の主な問題はヘドロの蓄積です。

高密度の浮遊したヘドロは、セタシジミやミジンコなどのろ過動物にも悪影響を与えるようです。蓄積されたヘドロ下において浮遊植物の幼い芽は、日光不足のために成長が困難でした。このような問題を解決するいくつかの方法を発表しました。

この内容は世界湖沼会議分科会でも報告をされた他、京都新聞に掲載されました。



ホタルとの共存

連載：河野義明

ホタルにまつわるお話2
ホタルと共存の工夫

人がホタルと共生する必要性はなんだろう?戦後汚れた川から異臭が漂い、釣りや水遊びが出来なくなった時、人はきれいで豊かな川の価値に気づき、多額の経費を投じて川の価値を取り戻してきた。そのとききれいな水の象徴になったのがホタルであり、守山市以外でも多くの町がホタルを守る活動を進めている。「ホタルと人の共存にはどのような工夫が必要だろうか?」

今回は水質について考えてみる。森から流れ出す枯葉分解物等が、カキなど海の魚介類の豊かさを決めることは最近よく知られるようになってきた。一方川の上流部や川岸から流れ出す栄養分が、ホタル幼虫の餌となるカワニナの生息数の大きな要因であることは、同じことなのに意外と知られていない。ホタル飛翔数の多い川岸には雑草が生えている場所が多いし、水草と魚が住み着いた上流部からは、栄養分や酸素を豊富に含んだ水が供給されている。

ホタル幼虫はきれすぎる水には棲めないのだ。昔湧水が豊富だった守山には多くの小川が流れている。川辺を含めた景観は守山が誇れる自然資産でもあるが、その維持管理は悩ましい。除草や清掃さらには刈られた草の運び出し作業は、よほど川の恩恵を周知しないと地域の動員が難しい。そこで、除草作業が不要か大幅省力化を可能にする工夫が求められている。(具体策を示す続きは豊穰の郷HPに後日UPします。)